

## 現在から 2050 年代に至る日中の主要都市の気候変化の予測と

### 将来の都市温暖化の地域特性の比較

日本建築学会の「気候変動モデリング WG」では、IPCC の温暖化シナリオを用いた全球気候モデル GCM(Global Climate Model)の解析結果を境界条件とした領域気象モデル WRF(Weather Research and Forecasting)での力学的ダウンスケーリングを行い、日本の主要都市における 2050 年代の標準気象データを整備した。我々はこの活動の一環として 2050 年代の仙台、東京、名古屋等の日本の主要都市の気候予測を行ってきたが、主要都市の大半が沿岸部に立地し、人口減少過程に入った日本に対し、内陸にも多くの大都市が点在し、依然として拡大過程にある中国では、今後の都市気候変化の様相が異なると考えられる。そして、日中の都市気候変化の共通点と相違点を分析することは、各都市の特徴を踏まえた合理的な対策を考える上で非常に有益であると考えられる。これら分析のために必要となる、都市の形態の分類化手法、複数の温暖化シナリオを対象とする気象データの整備を今年度実施し、本研究会ではこの研究成果を報告する。地球温暖化や気候解析、また都市形態分析に興味を持つ研究者・学生・実務者の積極的な参加を期待する。

【日時】 2020 年 2 月 28 日 17:00~19:00

【会場】 東京工芸大学 中野キャンパス 1 号館 1F 1101 教室

【参加費】 無料

時間	タイトル 発表者 (所属)
17 : 00~17 : 30	開会、本研究の昨年度までの成果及び課題 石田泰之 (東北大学)
17 : 30~18 : 10	地球温暖化シナリオに基づく擬似温暖化気象データの整備 玄英麗 (東京工芸大学)
18 : 10~18 : 50	LCZ 区分の基準値の統一化に向けた客観データに基づく 東京首都圏の市街地形態と地表面被覆の分析 千葉絵理奈 (東北大学)
18 : 50~19 : 00	討論、閉会 持田灯 (東北大学)